



2月5日、鹿角市交流センターを会場に、「ザ☆まちづくり井戸端会議」を開催しました。

従来の「市民と語る会」から形を変え、より自由で活発な意見交換を目的とした試行的な取り組みです。

現在、鹿角市議会では女性議員が不在で、女性の意見を市政へ反映させることが課題の一つです。

このことから「女性の視点でまちづくり」をテーマに、女性の参加者16名に議会広報委員と議会改革検討委員会を加えた23名が4つのグループに分かれ、鹿角の

「仕事」と「教育」について意見を出し合いました。

鹿角の「仕事」については、子育て環境やリモートワークなどが充実している一方で賃金や若い人材などが不足しているとの意見が出されました。また、起業や情報発信、明るい職場づくりなどは自分たちでも取り組めるとし、行政には、教育機関の充実や後継者・移住者への支援を望む意見が出されました。

鹿角の「教育」では、学校と地域のつながりが充実しているとしながらも、将来の選択肢や通学環境の整備が課題として出され、行政に対し、通学時の安全確保や教育機関の充実を求める意見が出されました。



教育民生常任委員会派遣調査報告
(学校ICTの現状について)



学校ICTの現状を把握するため、タブレットを用いた授業の視察を十和田中学校で実施しました。

同校は、県内を牽引する先進的なICT活用が注目され、グループの事例校に指定されています。

1年生の理科、地層の授業では、地下の地層の様子を理解するためにタブレットを活用していました。各自が予想する地層の断面を着色し、四方に配置することで、視覚的な情報の整理が可能となり、理解の深化につながっていました。タブレットは各授業のほか、時間や体調の管理にも使用され、今後のさらなる活用が期待されます。

「市議会五十年を記念して
鹿角市議会のあゆみ(第二巻)」
の完成について

昨年、市制施行50年という大きな節目を迎え、この度「市議会のあゆみ(第二巻)」が完成しました。平成4年に市制施行20年を記念し発刊された「鹿角市議会20年のあゆみ」の続編となるこの議会史は、市議会の活動と市政の歩みを記録しています。

今日の鹿角市を築き上げてこられた皆様に改めて敬意を表しますとともに、この議会史が、これからのまちづくりを進める上で貴重な史料となりましたら幸いです。

(◎委員長、○副委員長)

◇議会史編さん委員会

◎田村富男 ○倉岡 誠

黒澤一夫 館花一仁

笹本真司 中山一男

栗山尚記



鹿角市議会のあゆみは、市内図書館や市民センター等でご覧いただけます。

編集後記

議会広報委員会には、ぎかいだよりの発行や広聴・広報活動の充実に加え、頂いた政策提言や意見などに基づいて、市政の課題などを取りまとめる役割があります。

特に皆さまから直接ご意見を伺う意見交換会は重要な取り組みの一つと捉えております。

本紙面上でも紹介しておりますが、2月に実施した「ザ☆まちづくり井戸端会議」には、多くの方からご参加いただきました。

新型コロナウイルスの感染状況も落ち着きを見せ始め、数年ぶりに何も制限のない日常に戻ることが期待されますので、意見交換の機会を積極的に設けていきたいと思っております。

(湯瀬弘充)

議会広報委員会	
委員長	金澤 大輔
副委員長	成田 哲男
委員	児玉 悦朗
	湯瀬 誠喜
	湯瀬 弘充